

第2回東海岸サンライズベルト構想検討委員会
事務局説明資料

令和3年3月14日

1 東海岸サンライズベルト構想策定の目的等

1 東海岸サンライズベルト構想策定の目的等

(1) 東海岸サンライズベルト構想策定の目的

- 県土の均衡ある発展に向けては、東海岸において、もう一つの南北に伸びる経済の背骨を形成し、強固な経済基盤を構築することが重要である。
- 新たな振興計画に向けて、東海岸サンライズベルト構想を策定し、東海岸地域の活性化・発展を推進する。

東海岸サンライズベルト構想検討委員会

・学識経験者及び関係団体、関係市町村長、県部局長

行政連絡会議

県及び市町村の担当課レベルでの情報共有、意見照会

本委員会の構想(案)を踏まえ構想を策定

東海岸サンライズベルト構想

同構想を踏まえ、令和3年度以降反映

新たな振興計画
各分野の個別計画（県・市町村）

12月

第1回東海岸サンライズベルト構想検討委員会 (12/18)

- ・基本的な方向性や今後の進め方
- ・各委員の意見、情報共有など

12月

第1回行政連絡会議 (12/23)

- ・東海岸サンライズベルト構想（たたき台）について
- ・県及び市町村の担当課レベルでの情報共有、意見照会

1月

第2回行政連絡会議 (1/29)

- ・意見の反映状況の確認・調整
- ・東海岸サンライズベルト構想（素案）への反映状況

3月

第2回東海岸サンライズベルト構想検討委員会 (3/14)

- ・東海岸サンライズベルト構想（案）の決定

【関連する計画等】

- 中城湾港長期構想
 - マリントウンMICEエリア形成に向けた取組
 - 各市町村プロジェクト
- など

※加えて、サンライズベルトの北部圏域への展開の検討について、北部圏域の市町村の意見を反映するため、別途、北部市町村のヒアリングや意見照会等を行う。また、上記スケジュールのほか、適宜、必要な調整を行う。

3月末

沖縄県東海岸サンライズベルト構想

2 第1回検討委員会の主な意見について

論点1：県土の均衡ある発展に向けて、東海岸地域に南北に伸びるもう一つ経済の背骨を形成する強固な経済基盤の構築について

第1回委員会における主な意見①

※順不同

【MICE関連】

- マリントウンMICEエリアの核となる大型MICE施設は、構想において重要な位置づけを行い、早期整備が必要である。（西原町）
- 東海岸地域活性化の起爆剤となるMICE施設の成功には、那覇地区や周辺地域からの円滑な移動交通の確保が必要であり、スムーズな交通手段を導入しておくべきである。（与那原町）
- MICE施設周辺環境整備については、自然を楽しみながら、快適かつコンパクトで住みやすい空間の実現が重要である。また、エリア内はキャッシュレスはもちろんのこと、ビッグデータを活用したオペレーションシステムの導入といった、国内外からも訪れたい都市を形成する必要がある。（与那原町）
- 与那原マリーナからは大型ヨット（スーパーヨット）による富裕層の来訪者、中城湾港には大型クルーズ船を活用した多くの来訪者が想定されることから、当該来訪者の受入環境の整備が必要である。（与那原町）

【IT関連】

- IT津梁パークについては、情報関連産業の一大拠点の形成を目指し、高付加価値サービスや新たな価値を創造する企業等の立地を促進していきたい。観光業や医療、農業等の他産業との連携にも取り組む。（商工労働部長）
- リゾテックは観光とITを掛け合わせた言葉だが、観光だけではなく、あらゆる産業に関係してくる。ITや実証実験やスタートアップという言葉が記載されているが、リゾテックという言葉を使用していきたい。（永井委員）
- IT等の最先端技術の集積地域を形成し、自動運転の実証実験等を行える空間や、国内外からクリエイティブな人材を東海岸に呼び込めるようにしたい。（与那原町）

論点1：県土の均衡ある発展に向けて、東海岸地域に南北に伸びるもう一つ経済の背骨を形成する強固な経済基盤の構築について

第1回委員会における主な意見②

※順不同

【スポーツ関連】

- 沖縄市で多目的イベントホールである沖縄アリーナが整備されており、令和3年6月に開業予定となっている。沖縄アリーナは琉球ゴールデンキングスのホームとなる他、令和5年のFIBAバスケットボールワールドカップ等、今後多くの国際大会の会場として期待されている。（文化観光スポーツ部長）
- 尚巴志マラソン等の東海岸地域のスポーツツーリズムの拡大が期待されているほか、サイクルツーリズムについても話があり、ハードとソフトの両方で期待が寄せられる。（文化観光スポーツ部長）
- 年中温暖な沖縄の気候を生かして、東海岸地域の魅力・史跡等をつなぐワンウェイマラソン大会や、東海岸地域におけるサイクルツーリズムの実施等による観光客の誘致を図る取り組みが必要である。（与那原町）
- 自転車で回って楽しめる地域の観光も考えられるが、交通網が整備されないと、有効な活用が難しいと思われる。（中城村）

【世界遺産、観光周遊】

- 東海岸地域は朝日が美しく、観光、農業、自然等、様々な楽しみのある地域である。観光面では、中城村には国内外から観光客が訪れる中城ゴルフ場があるものの、ポテンシャルが活かしきれない状況にある。（中城村）
- 勝連城跡と中城城跡、斎場御獄といった世界遺産群も加えた観光周遊ルートを構築することが必要である。（うるま市）
- 琉球王国のグスク及び関連遺産群が世界遺産に加わって20周年となっており、SNSを活用したプロモーション事業やスタンプラリーを実施している。（文化観光スポーツ部長）
- 中城公園は、中城城跡を核とし、沖縄の歴史、文化、自然を積極的に体験、学習できる公園として整備を進めていく。（土木建築部長）
- 沖縄県では令和元年度から富裕層を対象にプロモーション事業を実施しており、東海岸地域を含め、本事業の対象となる富裕層向けのコンテンツやサービスについて、適宜取り組んでいきたい。（文化観光スポーツ部長）

論点1：県土の均衡ある発展に向けて、東海岸地域に南北に伸びるもう一つ経済の背骨を形成する強固な経済基盤の構築について

第1回委員会における主な意見③

※順不同

【産業集積】

- ・ 国際物流拠点産業集積地域について、企業誘致は進んでいるものの産業用地が不足している状況にある。（商工労働部長）
- ・ 産業の集積については、中城湾港の後背地に新たな産業集積を検討しており、構想内でも重要なポイントとして位置付ける必要がある。（うるま市）
- ・ 産業拠点のため、保全と開発の両立を図りながら、南部東道路を生かした産業用地の確保が必要である。（南城市）

【港湾】

- ・ 東部海浜開発地区にスーパーヨットの寄港ができるよう整備を進める必要がある。（沖縄市）
- ・ 人流・物流が回復すると那覇港だけでは限界を超えてしまう。中城湾港の整備を早期に取り組み、沖縄のもう一つの発展の核にする必要がある（山城委員）
- ・ 企業立地については、中城湾港における外航船寄港に対応した港湾施設整備に対応した環境整備、周辺地区を含めた物流関係事業者の更なる集積など、港湾及び物流機能の強化は必要不可欠である。（うるま市）
- ・ 東海岸地域の産業発展のコア部分として、港湾（中城湾港）と背後地域との円滑な連絡を確保するため、臨港交通施設の整備が求められている。（うるま市）
- ・ 課題の対応や持続可能な成長の観点に基づき、長期構想について議論をしているところである。今後の中城湾港のあり方については、令和3年度予定の港湾計画の改訂や、令和4年度の新たな振興計画によって、施策事業として位置付ける。（土木建築部長）

論点1：県土の均衡ある発展に向けて、東海岸地域に南北に伸びるもう一つ経済の背骨を形成する強固な経済基盤の構築について

第1回委員会における主な意見④

※順不同

【土地利用】

- 中城村と共同で中部広域都市計画区域への編入をお願いしている。（北中城村）
- 中城村は市街化調整区域、農振区域の網掛けによって、住宅建築や企業誘致等が困難である。東海岸地域全体で地域活性化を図るためには、市町村単位でその地域のポテンシャルを最大限に引き出せるよう都市計画の緩和は必要不可欠である。（中城村）

【交通ネットワークの構築】

- 東海岸サンライズベルト構想では、東海岸地域にもう一つ南北に延びる経済の背骨を形成することが大きな目標であることから、国道329号西原道路のさらなる整備が必要である。（うるま市、西原町、中城村）
- 中長期的な取組みとして、鉄軌道とフィーダー交通が連携する公共交通ネットワーク構築がある。鉄軌道と各地を結ぶ利便性の高い公共交通ネットワークの構築を見据えて、市町村と共同で公共交通の充実に向けた取組みを進める。（企画部長）
- 東海岸地域においては交通の整備が重要と考える。観光や物流等も含め、那覇空港や港湾とのアクセスが重要となる。交通ネットワークを何処に繋げていくかを考える必要がある。（池田委員長）
- 那覇港湾、中城湾港が単に機能していれば良いというわけではない。那覇港と中城湾港が連携するための物流道路の整備も必要である。（山城委員）

【その他】

- 東海岸地域の活性化・発展を目指すには、とりわけ公共下水道の整備が非常に重要である。（南城市）
- OISTとの連携。OISTは西側にあるが、研究成果の具現化を東海岸側に展開が期待される。（富川副知事）

論点2：社会・経済情勢の変化を踏まえた今後の展開について

第1回委員会における主な意見

※順不同

【SDGs：公共交通、持続可能な観光】

- 沖縄もSDGsに順守していくため、温室効果ガスの排出抑制についても考慮し、公共交通の政策や道路整備等の視点が必要である。（島袋副委員長）
- 歴史資源、自然資源と観光振興の調和がまさに東海岸の強みである。再発見バスツアー事業を行っており、今後、観光客も利用されていけば、レンタカーによる交通渋滞の緩和にもつながる。（前原委員）
- 南城市とうるま市では観光振興及び地域活性化を目的に、観光客の回遊性向上を図る観光型MaaSの実証実験をしている。県内の他地域と同様に、東海岸地域でも取り組む必要がある。（うるま市）
- 東海岸地域は公共交通が脆弱であるため、基幹道路の整備と、バスも含めた公共交通とシェアリングモビリティの有機的な連携を検討する必要がある。（与那原町）

【ポストコロナ時代：ワーケーション】

- 非常に重要な事項であるウィズコロナ、アフターコロナの視点が盛り込まれており、これについては賛同させて頂きたい。特にワーケーションなどの新しい視点は東海岸地域に係る施策において重要な要素となる可能性がある。（西原町）
- 沖縄県は他府県と比べてワーケーション拠点として魅力的な県である。その中でも、サンライズを望む東海岸は生活リズムを整える健康面から高いポテンシャルがある。（うるま市）
- ワケーションについて、快適な滞在とアクティビティ、リラックスして仕事ができる環境が必要となるが、現状としては不十分であるため、それらの整備が必要になる。（前原委員）

論点3：西海岸地域とは異なる東海岸地域のポテンシャルを活かしたコンセプト（構想の方向性）について

第1回委員会における主な意見

※順不同

【自然や文化との調和】

- 東海岸地域は自然が非常に豊かであり、北部地域も同様に自然が残っていることを考慮したい。沖縄県全体のバランスを考慮した都市の開発が重要である。（池田委員長）

【日本経済のけん引役】

- 沖縄のポテンシャルを存分に発揮し、日本経済再生のけん引役となるためには、各市町村の強みを生かした施策の展開が重要。（沖縄市）
- 将来は世界へ羽ばたくようなストーリーのある構想をつくる必要がある。（北中城村）

【西海岸に匹敵する賑わいを創出】

- 各自治体の拠点・資源等のポテンシャルが活かされ、西海岸に匹敵する賑わいを創出できるような構想とする必要がある。（沖縄市）

【快適な生活空間】

- 大型ショッピング施設が乱立し、住宅が密集するようなエリアではなく、働く、住む、遊ぶの3つを満たす快適な生活空間の形成を目指す。（与那原町）

【サンライズの象徴となる言葉】

- 東海岸地域はうるま市から南城市にかけて、様々な要素やキーワードを持っており、東海岸サンライズの象徴となる言葉が無いと、西海岸との違いを示せないと感じた。東海岸ならではの要素として朝日があり、そこから派生してスタートや起動というイメージ、共通する言葉があると、西海岸と差別化等ができるのではないかと。（永井委員）

3 第1回委員会後の取組等について

第1回委員会後の取り組み等について

1 行政連絡会議の開催

※構成 県：12課長級（企画調整課、交通政策課、ものづくり振興課、企業立地推進課、情報産業振興課、観光振興課、MICE推進課、スポーツ振興課、道路街路課、都市計画・モノレール課、都市公園課、港湾課）

市町村：7課長級（うるま市企画政策課、沖縄市政策企画課、北中城村企画振興課、中城村企画課、西原町企画財政課、与那原町企画政策課、南城市企画課）

12/23 第1回 行政連絡会議

（12/23～12/28 市町村追加補足意見照会、1/5～1/15 県関係課意見照会、1/12 南城市との個別意見交換）

1/29 第2回 行政連絡会議

2 北部5市町村との意見交換会

※構成 県：企画調整課

市町村：国頭村、東村、名護市、宜野座村、金武町

2/2 北部5市町村との意見交換会

3 学識経験者との意見交換

※主に第2回行政連絡会議で配布した構想素案（未定稿）の説明意見交換

2/5 島袋委員（経済）

2/8 永井委員（IT）

2/9 前原委員（観光）

2/16 池田委員長（まちづくり、全体の方向性）

2/22 山城委員（物流）

東海岸サンライズベルト構想（素案）の概要について

東海岸サンライズベルト構想（素案）概要①

1 構想の意義及び位置づけ

（1）構想策定の意義

- ▶ 県土の均衡ある発展に向けては、東海岸地域にもう一つの南北に伸びる経済の背骨を形成し、強固な経済基盤を構築することが重要である。
- ▶ はじめて、東海岸地域の活性化・発展を推進するための方向性を示す。

（2）構想策定の背景

- ▶ 「新沖縄発展戦略：新たな振興計画に向けた提言」において、新たな振興計画に向けた重要事項のひとつとして、「東海岸サンライズベルトの発展戦略」が示されている。

（3）構想の位置づけ

- ▶ 県全体の発展を見据えた広域的な観点から、施策展開を推進
- ▶ 新たな振興計画に盛り込む等

2 捉えるべき社会動向

（1）SDGs

- ▶ 持続可能な開発のための17の国際目標

（2）パリ協定

- ▶ スマートシティやグリーンインフラストラクチャーといった環境共生都市

（3）新技術・イノベーション

- ▶ AIやIoTの活用等が急速に進展

（4）ポストコロナ時代

- ▶ テレワーク等のリモートサービスの拡大、職住近接や地方への移住等、働き方や住み方の変化

3 東海岸地域の発展可能性

（1）発展可能性

- ▶ 中南部都市圏の東海岸地域においては、国際物流拠点の形成や今後の大型MICE施設の立地など経済発展の大きな可能性を有しており、東海岸地域にもう一つ南北に伸びる経済の背骨を構築することにより、西海岸地域と連携を図りながら強固な経済の形成が期待できる。
- ▶ 北部圏域において、貴重な動植物が生息する自然環境や、情報通信関連産業や金融関連産業の集積、スポーツキャンプ等に対応した施設などの強みを生かし、東海岸地域の自然環境や産業拠点を含めた南北に伸びる広域的な産業振興や観光振興の展開が期待できる。

（2）東海岸の強み・生かすべき特性

①東海岸の魅力となるスピリチュアル・ゆったり・スポーツ

- ▶ 世界遺産（斎場御嶽、中城城跡、勝連城跡）、東御廻い拝所巡礼、神の島久高島等
- ▶ 津堅島などの個性豊かな島しょ地域、ゆったりとした自然環境や生活空間
- ▶ 沖縄総合運動公園等のスポーツ拠点の形成等
- ▶ 環金武湾地域におけるスポーツ・リハビリ拠点等
- ▶ 世界自然遺産登録を見据えた「やんばるの森」など貴重な動植物が生息する自然環境

②MICEや海洋レクリエーション拠点

- ▶ 大型MICE施設の整備予定のマリントウンMICEエリアや沖縄アリーナ等
- ▶ クルーズ船やスーパーヨットの受入拠点、ビーチなどの海洋レクリエーション拠点

③中城湾港を中心に形成されたIT・産業振興拠点

- ▶ 研究、開発、生産、処理機能が集積する中城湾港新港地区工業団地及び産業支援港
- ▶ 中城湾港新港地区をはじめ情報通信関連企業、先端企業、臨空・臨港型産業の集積
- ▶ 沖縄IT津梁パーク等の情報通信産業振興の拠点施設
- ▶ ITオペレーションパークやマルチメディア館などの情報通信産業・金融関連産業拠点

（3）東海岸に求められる方向性

- ▶ 東海岸地域の発展可能性や強み・特性を生かし、産業・観光等において様々な地域資源を活用、発展させながら、東海岸地域一帯に本県の発展を更に促す西海岸地域と対をなす経済軸として、輝きを形成する。
- ▶ 中南部圏域と北部圏域が連動して展開することにより、相乗効果が期待される。

東海岸サンライズベルト構想（素案）概要②

4 基本方向

（1）基本的な考え方

県土の均衡ある持続可能な発展 ～東海岸地域の魅力・強みを生かし、西海岸地域と有機的につながる～

- ▶ 県土の均衡ある持続可能な発展に向け、東海岸地域の魅力・強みを生かし、西海岸地域と有機的につながり、東海岸地域において南北に伸びるもう一つの強固な経済基盤を構築する。

（2）目指す姿

**新時代に対応し、新たな価値を創造する
『住む、働く、遊ぶ』を満たす快適空間（エリア）の先導地域**

- ▶ 「新時代」とは SDGs、IT技術の進化、ポストコロナ時代の新たな生活スタイルなど、社会経済情勢の変化に的確に対応することを意味する。
- ▶ 「新たな価値の創造」とは、東海岸地域の強みや歴史・文化、自然環境、スポーツなどソフトパワーを生かし、観光、IT、ものづくり、物流をはじめ様々な産業の活性化や高付加価値化が図られ、県民所得の向上、貧困解消といった課題解決につながることを意味する。
- ▶ 「『住む、働く、遊ぶ』を満たす快適空間」とは、新型コロナウイルス感染症の拡大等により、働く場所を選ばないテレワークやワーケーションが注目されており、地域住民や観光客をはじめ、住む、働く、遊ぶの快適な空間が形成され、国内外の人材（ビジネス・スポーツ等）など活発に活動する魅力的な地域であることを意味する。
- ▶ 「先導地域」とは、SDGsを踏まえた持続可能な質の高い観光や新技術の導入によるスマートシティの形成など、夢のある先導地域として、沖縄県のみならず、日本経済への貢献や社会課題解決に資する地域を目指すことを意味する。

（3）構想全体のコンセプト

【東海岸のキーワード】

『サンライズ』を望む地域

- 「始動・目覚め、（再起動・リブート）」
- 「健康・活力」
- 「交流・創造」

**「インスピレーションの誘発、クリエイションの活性化、
イノベーションの創出」**

- ・ 世界遺産となっているスピリチュアルな歴史文化資源と沖縄特有のゆったりした自然環境により、ひらめきや新たな刺激を誘発するインスピレーションな地域
- ・ 世界との架け橋となるMICE等の交流や物流、スポーツ、ものづくりにより、人やモノの活動が活性化するクリエイションな地域
- ・ ResorTech Okinawaの推進やスマートシティの形成などにより、新たな価値を創出するイノベーションな地域

東海岸サンライズベルト構想（素案） 概要③

5 構想の実現のための展開

(1) 東海岸地域の魅力を生かした観光の展開

- ▶ 中城公園など観光エリア拠点の形成
- ▶ 世界遺産など地域の魅力を生かした持続可能な観光
- ▶ ソフトパワーを生かした沖縄にしかないワーケーション展開

(2) スポーツコンベンション地域の形成

- ▶ スポーツコンベンション拠点の形成
- ▶ スポーツツーリズムの推進

(3) マリントウンMICEエリアを核とした東海岸地域の活性化

- ▶ マリントウンMICEエリアの形成
- ▶ 東海岸地域の資源を生かした体験プログラム等の展開

(4) ITイノベーション拠点の形成

- ▶ ResorTech Okinawaの推進
(デジタルトランスフォーメーション等の促進)
- ▶ 新技術の実証の先行地域としての活用
- ▶ ワーケーションを展開するIT拠点の形成

(5) 臨空・臨港型産業の拠点形成

- ▶ 企業誘致・県内企業の高度化の促進
- ▶ 中城湾港新港地区、南部東道路等を活かした拠点形成
- ▶ 高付加価値な企業の集積や研究開発の推進

(6) サンライズポートの形成

(港湾の物流・人流機能の強化・拡充)

- ▶ 産業支援港としての港湾機能の拡充・強化
- ▶ 流通拠点としての安定的・効率的な物流環境の創造
- ▶ 多彩で高付加価値の観光・交流拠点の形成
- ▶ ブランド価値を生む親水空間の提供

(7) 良好な居住環境とともに歴史・自然資源

と産業・観光振興が調和する土地利用の展開

- ▶ 良好な居住環境の整備
- ▶ 都市基盤の整備、経済基盤の強化
- ▶ 広域的かつ計画的な土地利用の展開

(8) 円滑な交通ネットワークの形成

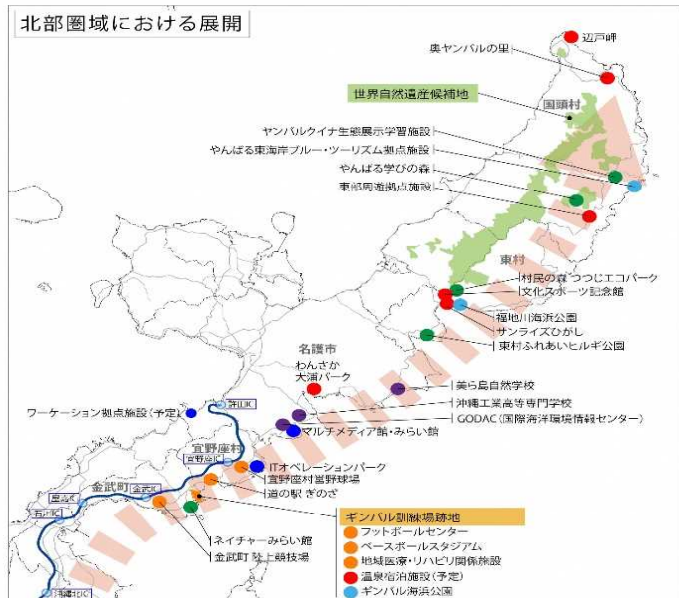
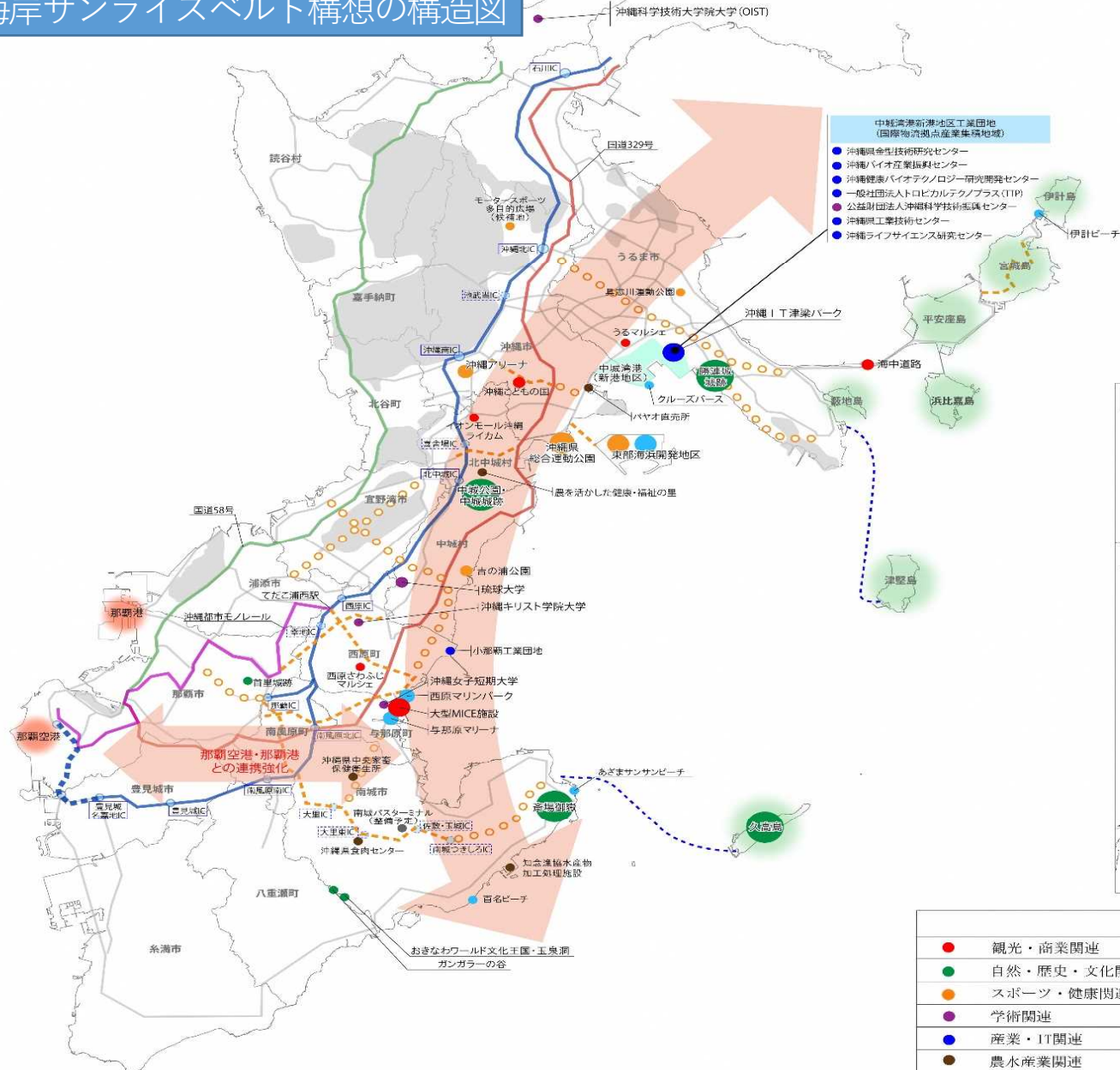
- ▶ 基幹道路整備による西海岸地域との連携強化
- ▶ 那覇港と中城湾港新港地区を結ぶ物流道路
- ▶ 地域拠点を結ぶ広域的な公共交通の充実・強化

6 構想実現のための北部圏域における展開

- ▶ やんばるの森などを生かした滞在型観光の推進や拠点形成
- ▶ スポーツ・リハビリ拠点の形成
- ▶ マリントウンMICEエリアから繋がる東海岸地域の活性化
- ▶ 情報通信等関連企業集積地のビジネス展開
- ▶ 子育てしやすい住み良いまちづくり
- ▶ 円滑な交通ネットワークの構築

東海岸サンライズベルト構想（素案） 概要④

7 東海岸サンライズベルト構想の構造図



凡 例			
●	観光・商業関連	●	マリナー、ビーチ等
●	自然・歴史・文化関連	●	島しょ
●	スポーツ・健康関連	---	離島航路
●	学術関連	○	IC (整備済み)
●	産業・IT関連	○	IC (事業中、計画・構想)
●	農水産業関連	—	主要道路 (整備済)
		---	主要道路 (事業実施中)
		○	主要道路 (計画・構想段階)
		—	高規格幹線道路 (整備済)
		---	高規格幹線道路 (事業実施中)

参考 東海岸サンライズベルト構想（体系）の比較

- ウィズコロナ等の新たな視点を踏まえワーケーションや広域的や観光展開等について、大項目として追加
- 大型MICE施設についてより広義の視点の名称とし、スポーツツーリズムについては、拠点形成やキャンプを踏まえた名称としている。
- 港湾機能の強化について、中城湾港長期構想との整合性を図った名称としている。
- 検討委員会を踏まえ、土地利用において、「良好な居住環境」を追加
- 北部市町村の意見を踏まえ、北部圏域における展開を章立てを行った。

新沖縄発展戦略：新たな振興計画に向けた提言（令和2年3月）

6 東海岸サンライズベルト発展戦略

- (1) 東海岸地域の発展可能性
- (2) 東海岸地域に南北に伸びる経済基盤の形成
 - ① ITイノベーション拠点の形成
 - ② 二次産業の拠点形成
 - ③ 港湾機能の強化
- (3) 大型MICE施設等を核とした東海岸地域の活性化
- (4) スポーツツーリズムの施策の展開
- (5) 歴史自然・自然資源と産業振興・観光振興が調和する土地利用の展開
- (6) 東海岸地域の円滑な交通ネットワークの形成
- (7) サンライズベルトの北部圏域への展開と県土の均衡ある発展



東海岸サンライズベルト構想 素案（令和3年3月 第2回委員会）

5 構想実現のための展開

- (1) 東海岸地域の魅力を生かした観光の展開
- (2) スポーツコンベンション地域の形成
- (3) マリントウンMICEエリアを核とした東海岸地域の活性化
- (4) ITイノベーション拠点の形成
- (5) 臨空・臨港型産業の拠点形成
- (6) サンライズポートの形成（港湾の物流・人流機能の強化・拡充）
- (7) 良好な居住環境とともに、歴史・自然資源と産業・観光振興が調和する土地利用の展開
- (8) 円滑な交通ネットワークの形成

6 構想実現のための北部圏域における展開